

講義名	管理会計論		
担当教員	伊藤 正隆		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
備考			

主題と概要

本講義は、会計情報を企業内部における活動や戦略に役立てることを目的とする管理会計の基礎的な知識や考え方を学ぶことが主題です。
 本講義では、この「管理会計」の基礎的な考え方や計算技法について理解することを中心として講義を進めます。管理会計とは簡単に言うと会計情報（数値）を用いた経営管理のことである。つまり、意思決定および業績評価を行う際に会計情報を判断材料の1つとして利用することである。管理会計は経営者のみならず、企業内における従業員等にとっても重要な学問である。講義のレジュメは「講義連絡」を通じて配布します。

到達目標

(1) 業務的意思決定を学修することで、企業経営における随時的な意思決定の考えが理解でき、代替案の評価・選択ができるようになる。
 (2) 戦略的意思決定を学修することで、企業運営に適合するための体系的な意思決定の考えが理解でき、時間価値を考慮した意思決定情報の作成および利用ができるようになる。
 (3) 経営理念から予算管理までおよび経営管理プロセスを学修することで、企業経営におけるPDCAサイクルを理解でき、さらにはそうしたサイクルにおける会計情報の役割を理解できるようになる。

なお、本講義は一部グループワークなどを実施するため、オンデマンドでの受講では到達目標を達成することが難しい科目であるため、原則としてオンデマンドでの開講はできない。もし、通学禁止となった場合、通学できない期間の講義についてはレジュメおよび参考文献を用いて学修してもらおう。

提出課題

適宜、課題(小テスト)の提出を求めます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

小テスト実施した1週間以内に、文章にて解説・フィードバックを行います。

評価の基準

平常点(小テスト)：30%
 定期試験：70%

履修にあたっての注意・助言他

- ・計算問題を行うことがあるため、電卓(携帯は不可)が必要です。
- ・将来的に経営者志望あるいは管理者になりたい方にオススメです。
- ・講義レジュメなどの資料は、Portalの「講義連絡」にて配布します。必ず目を通してください。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスの修正があります。

教科書	.使用しない。			

プリント資料及び参考文献

プリント資料：「講義連絡」で適宜配布します。
 参考文献：櫻井通晴『管理会計、基礎編』(2010、同文館出版)
 浅田孝幸・朝倉・鈴木研一・中川康・佐々木郁子『管理会計・入門(第3版)』(2013、有斐閣アルマ)

授業計画

第1回 ガイダンス(管理会計とは)
 第2回 管理会計の基礎概念
 第3回 業務的意思決定(自製orアウトソーシング)
 第4回 業務的意思決定(特別法受注法の可否および追加加工の可否)
 第5回 業務的意思決定(プロダクト・ミックス)
 第6回 戦略的意思決定(会計的投資利益法と回収期間法)
 第7回 戦略的意思決定(割引現在価値法・内部利益率法)
 第8回 前半のまとめ
 第9回 利益計画
 第10回 OVP分析
 第11回 予算管理(体系およびプロセス)
 第12回 予算管理(シミュレーションゲーム)
 第13回 予算管理(学術的研究)
 第14回 事業部の業績評価
 第15回 全体のまとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：「講義連絡」でプリントを配布して講義を行うため、特に予習を行う必要はない。ただし、指定した参考文献などで予習することは可能である。
 復習：毎回課題を配布します(自習用のため提出は不要)。定期的に実施する小テストを解くためにしっかりと復習することを要求します。(目安:1講義あたり4時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標(1)～(3)を達成することで、経営学科共通DPに貢献できる。意思決定や業績管理を理解することは、業界の動向や問題点を理解し、企業マネジメントに関する問題探索および課題探索の実施には必要である

目標(1)～(3)を達成することで、会計コースのDP に貢献できる。企業内部の利害関係者に必要な会計情報の作成、分析ができるようになる。
 目標(2)および(3)を達成することで、会計コースのDP に貢献できる。会計の知識をもとに、企業における課題や悩みを発見し、それを計画・実行するのみならず、結果をフィードバックすることで将来の経営戦略に貢献することができる。
 目標(1)および(2)を達成することで、ブランド戦略コースのDP に貢献できる。会計の知識をもとに、変化する消費者を的確に捉え、これに対応するための具体的な改善策や解決策の提案ができる。
 目標(1)および(2)を達成することで、流通ビジネスコースのDP に貢献できる。サプライチェーンにおける会計の役割を理解することで、組織間マネジメントにおける小売業の社会的意義や日本経済における重要性について理解できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 公認会計士および税理士としての経験を持つ教員が、実務における経験を活かして、実際の経理事務等の内容も含めた教育を行う。

備考

・質問等がある場合は、各レジュメの1ページ目に記載されたアドレスにメールをしてください。